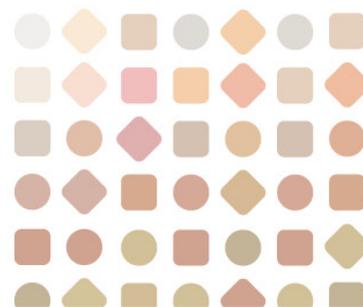


管理者ガイド

# Portfolio™



# コピーライト

© 2010 Extensis, a division of Celartem, Inc.

本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複写・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensis の書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

Extensis は Extensis の商標です。Extensis のロゴ、Font Vault、Font Sense、Portfolio、Portfolio Server、Suitcase、Universal Type、Universal Type Client、Universal Type Core は Extensis の商標です。Portfolio NetPublish、NetPublish、Universal Type Server、Type

Server は Extensis の登録商標です。Celartem、Celartem, Inc.、Celartem のロゴは、Celartem, Inc. の商標です。Adobe、Acrobat、Illustrator、Photoshop、PostScript、XMP は Adobe Systems, Incorporated の商標です。Apple、Mac、Macintosh、Mac

OS、Bonjour、Xsan は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の登録商標です。Microsoft、Internet Explorer、Windows、Windows Vista、Windows XP、SQL Server

は Microsoft Corporation の登録商標です。Intel は Intel の登録商標です。Java、Java Powered ロゴ、MySQL

は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。Quark、QuarkXPress は、Quark Inc. の商標です。IBM® DataMirror® は International Business Machines

Corporation の商標または登録商標です。OpenOffice.org

は米国で登録商標および保護されています。その他全ての商標は各社が所有しています。

オンデマンドイメージング、ビデオ変換と処理は MediaRich®

プラットフォームで実行されています。MediaScript、MediaRich は Automated Media Processing Solutions, Inc., dba Equilibrium の商標または登録商標です。Copyright © 2004-2010. All Rights Reserved. 米国特許番号 6,792,575、6,964,009、他の特許は申請中です。

Extensis は、製品の購入日より 30 日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品を Extensis から直接購入し、30 日以内に障害が発生した場合、ディスクを Extensis に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前に Extensis で登録する必要があります。販売店から購入した Extensis 製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。



# 目次

コピーライト .....	2
目次.....	3
<b>Extensis Portfolio Server によるこそ.....</b>	<b>5</b>
<b>バージョン9.5 および 9.0 の新機能 .....</b>	<b>6</b>
<b>はじめに .....</b>	<b>8</b>
Portfolio Serverのインストール概要.....	8
Portfolio Serverのシステムの必要条件 .....	8
OpenOffice.orgのインストール .....	9
Portfolio Serverのインストール .....	9
Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開く .....	11
管理者パスワードの変更 .....	12
Portfolio Serverのライセンス番号の入力.....	12
既存のカタログの更新 .....	12
<b>サーバーのステータス.....</b>	<b>14</b>
Portfolio Serverの起動.....	14
ポート .....	14
サーバーの再起動 .....	20
表示言語の変更 .....	20
<b>カタログ .....</b>	<b>21</b>
カタログの作成.....	21
カタログの種類.....	21
カタログの種類のカスタム作成.....	22
画面プレビュー .....	23
画面プレビューの有効化 .....	23
カタログをオフラインにする .....	25
カタログの削除.....	25
<b>ユーザー .....</b>	<b>26</b>
ユーザーの追加.....	26
ユーザーのカタログメンバシップの付与 .....	26
ユーザーアクセスレベル .....	27
アクセスレベルとウェブクライアント.....	27
アクセスレベルの設定 .....	28
ユーザーの編集.....	28
ユーザーの削除.....	28
<b>カタログの管理 .....</b>	<b>30</b>

カタログのカスタマイズ .....	30
オートシンク .....	30
<b>Portfolio Server の管理 .....</b>	<b>35</b>
Portfolio Server のバックアップ .....	35
Portfolio Serverとデータ処理のログ .....	37
設定ファイル.....	38
<b>ウェブクライアントの管理 .....</b>	<b>39</b>
Portfolioウェブクライアントのカスタム表示の作成.....	39
クイック検索パラメータの設定.....	40
<b>Extensis社について .....</b>	<b>42</b>
連絡先 .....	42
技術サポート.....	42
<b>索引.....</b>	<b>43</b>

# Extensis Portfolio Server によるこそ

Portfolio Serverはパワフルで容易に実行できる、デジタル資産管理およびメディア配信ソリューションです。Portfolio Serverはオープンで一元管理できるプラットフォームとして、デジタル資産の管理、自動化、正しい生成、アクセスおよび配信を行います。Portfolioのカタログによって、マルチチャネルのマーケティング、画像、フォト、ビデオ管理、ブランド管理、およびウェブベースのオンデマンドソリューションを容易に配備することができます。

Portfolio Serverでは、直観的なウェブクライアントとデスクトップクライアントアプリケーションを使用して、あるいはNetPublishを動力源としたウェブサイト経由で資産にアクセスできます。一部のサーバーアプリケーションと異なり、Portfolio Serverではセットアップおよび使用を簡単に行うことができ、メンテナンスも最小限で済みます。

Portfolio Serverには、次のようなさまざまな利点があります：

- ファイルへのアクセスが集中化され、ユーザーは容易にファイルを見つけて、ドラッグアンドドロップで簡単に使用することができます。
- カタログをカスタマイズすることができ、ワークフローの独自の様式に適合させることができます。これによって重要なファイルについての情報が決して失われません。
- 互換性のある任意のウェブブラウザを使用して、サーバー、カタログおよびユーザー管理を実行します。管理はほとんどすべてのウェブブラウザから実行できます。
- サーバーはワークフローの一部を自動化でき、デジタルメディアファイルの処理に関連して繰り返し行う作業を担うため、目的が繰り返し達成されます。

**重要:** 最新の製品ユーザーガイドは [Extensis ウェブサイト](#) からPDFファイルをダウンロードしてください。英語のガイドが更新された後、日本語版などのガイドが更新されるまでには時間がかかる場合があります。各言語版の最新ドキュメントもダウンロードできます。

# バージョン9.5および9.0 の新機能

## Portfolio Server 9.5

は、デスクトップクライアント、ウェブクライアントとともに、サーバー管理インターフェースが使いやすくなり、スピードも向上しています。

## Portfolio Server

- **スタジオエディション: Portfolio Server**  
Serverのスタンダードな利用よりも、小さなワークフローで利用したり、これからデジタルアセット管理を始めるのに最適な、**Portfolio Server** **スタジオエディション**をご用意しました。このエディションは、同時に開けるカタログが1つで、同時にアクセスできるクライアントが2名までとなっています。デスクトップクライアント、ウェブクライアントの両方を利用することができますが、同時に開けるクライアントを追加したり、NetPublishやNetMediaMAXなどのオプションを追加することはできません（カタログを複数作成したり、ユーザーアカウントを2人以上設定することは可能です。同時に接続する数が限定されるだけです）。
- **セットアップ:**サーバーの設定がよりシンプルになりました。起動してから利用するまで数分で実行できます:
  - 既存のカタログに新規ユーザーを自動的に追加されます。
  - 新規カタログ作成時にプレビューとオートシンクフォルダが自動的に作成されます。
  - プレビューオプションの設定が簡単になりました。
  - 新規カタログにはカタログ管理者としてサーバー管理者が自動的に追加されます。
- **スピード:**  
カタログへの接続、カタログを開く、ファイルを登録する、オートシンク、アセットのプレビュー、検索&クイック検索、サーバーの自動処理などが高速化されました。
- **システムログ:**  
システムのログオプションとログコンテンツがより充実され、簡単にアクセスできるようになりました。
- **接続ユーザー:Portfolio Server Admin**  
Webインターフェイスで接続ユーザーの情報をより多く表示できるようになりました。
- **設定チェックリスト: Portfolio Server**  
Serverに新しいシリアル番号を入力すると、新規設定ボタンが表示され、必要な作業のチェックリストが表示されます。

## ウェブクライアント

- **フラグ付け:** ギャラリーを作成したり、アイテムを移動する前にアセットに印をつけることができます。
- **"作成者"オーガナイザ:** 接続中のユーザーが登録したアセットを表示できます。
- **単体アイテムのダウンロード:** 圧縮の不要な一つだけのアイテムをダウンロードできます。
- **単体アイテムの名前変更:**  
バッチ処理での変更だけでなく、プロパティパネルで単体のファイル名を変更することができます。
- **メニューのシンプル化:** メインのメニューがシンプルになりました。
- **キーボードショートカットとショートカットメニュー:**  
よく使う機能はキーボードショートカットが利用できるようになりました。またアイテム上で右クリックしてオプションを利用できます。
- **ログインの簡易化:**  
単体カタログのユーザーは、カタログが自動的に開いて最初のページが表示されます。
- **前回のユーザーを記憶:** ブラウザでユーザー名、言語、ギャラリー表示、ページサイズ、パネル表示などの最後のユーザー設定を記憶させることができます。新規に接続する際に画面の設定に時間を使う必要がありません。
- **プレビューモード:**  
新しいプレビューモードでは、画面サイズに1つの画像を表示したり、表示位置の移動や拡大、ダウンロードもワンクリックで行えます。
- **プレビューのストリーミング:** プレビューファイルが保存されている場所へアクセスをする必要がなくなりました。Portfolio Server  
がクライアントにプレビューを提供し、特別なネットワークアクセスやアクセス権を気にする必要なく高品質のプレビューを表示します。

## デスクトップクライアント

- **シリアルナンバー:** シリアル番号について考える必要がなくなりました。
- **プレビューのストリーミング:**  
プレビューファイルが保存されている場所へアクセスをする必要がなくなりました。Portfolio Server  
がクライアントにプレビューを提供し、特別なネットワークアクセスやアクセス権を気にする必要なく高品質のプレビューを表示します。
- **ログイン:** ログインが簡単になり、再接続は自動で実行されます。
- **メタデータ:** サポートファイルのメタデータに埋め込みできます。

## ワークフロー

- **Adobe DNG サポート:** Adobe の変換テクノロジーで、多くのRAWファイルやTIFFファイルをAdobe Digital Negative (DNG) フォーマットに変換できます。
- **メタデータ:** Microsoft Office書類内の一般的なメタデータ、標準的なメタデータ、Adobe DNGファイル内のXMPメタデータをサポートしました。
- **ローカルメディア:**  
リムーバブルメディア (CDやDVD、USBなど) からカタログに登録することができます。これらのメディアがオフラインの状態でもプレビューや検索が可能です。
- **ギャラリー:**  
管理者はカタログに対してパブリッシャー権限が無いユーザーに公開・非公開ギャラリーの作成、アップデート、削除できるように設定できます。

# はじめに

## Portfolio Serverのインストール概要

次に、Portfolio Serverのインストールおよび設定に必要な手順の総括を説明します。

1. [システムの必要条件を確認します。](#)
2. 必要に応じて、[OpenOffice.orgをインストールし](#)、Officeファイルのカタログ作成をサポートします。
3. [Portfolio Server](#)をインストールします。
4. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
5. 管理者パスワードを変更します。
6. [Portfolio Serverをパーソナライズします。](#)
7. [外部サーバーとの通信に必要なポート](#)を、必要に応じてファイアウォール内で開きます。
8. [Portfolioユーザー](#)を追加します。
9. [共有カタログ](#)を作成します。
10. [ユーザーにカタログのメンバシップを付与します。](#)
11. Portfolioデスクトップクライアントをインストールします。
12. Portfolioデスクトップクライアントを使用して、アセットを保存するための[オートシンクフォルダ](#)を作成します。
13. デスクトップクライアントを使用するか、ウェブクライアント経由で、ユーザーを共有カタログに接続します。

初期設定後、Portfolioデスクトップクライアントを使用して、ワークフローのニーズを最も良く満たすようにカタログをカスタマイズしてください。

- カスタムフィールドの作成およびデフォルトのフィールド値の設定
- カスタムメタデータマッピングの設定
- カタログ作成オプションの作成およびオートシンクフォルダへの適用
- マスターキーワードリストの作成

詳細については、『Portfolioデスクトップクライアントユーザーガイド』を参照してください。

## Portfolio Serverのシステムの必要条件

最新の情報は、Extensisのウェブサイトでご確認ください：

<http://www.extensis.com/en/support/documentation/?fs=/en/support/documentation/portfolio/>.

または国内販売代理店のサイトをご覧ください：

<http://www.swtoo.com/product/extensis/>

# OpenOffice.orgのインストール

Officeベースの文書（Wordの.doc、.docx、Excelの.xls、.xlsx、PowerPointの.ppt、.pptx）に関して、文書のカatalog作成やサムネールの作成を利用するには、OpenOffice.orgをインストールする必要があります。

次からOpenOffice.orgをダウンロード：<http://download.openoffice.org/index.html>

**重要：** Portfolio Serverをインストールする前に、OpenOffice.orgアプリケーションをインストールして起動しておく必要があります。先にPortfolio Serverをインストールしてある場合には、Portfolio Serverを [アンインストール](#)してからOpenOffice.orgをインストールした後、再びインストールしてください。

**注意：** Mac OS Xでは、OpenOffice.org と Portfolio Server は同じユーザーアカウント内にインストールする必要があります。see "Portfolio Serverのインストール" on page 9を参照してください。

OpenOffice.orgはPortfolio Serverと同様に外部の画像メディアエンジンでも利用できます。see "Making Portfolio Server and External Media Engines Uniform" を参照してください。

OpenOffice.orgをインストールすることをお勧めしますが、Portfolio Serverまたは外部の画像メディアエンジンには、OpenOffice.orgは必須ではありません。Portfolio Serverまたは外部の画像メディアエンジンは、ドキュメントフォーマットの対応にOpenOffice.orgを利用します。

## Portfolio Serverのインストール

### Windowsへのインストール

Portfolio Serverのインストールは素早く簡単に行えます。サーバーにインストーラをダウンロードして、それをダブルクリックし、後は、インストーラのガイドに従います。

Windowsでのインストールプロセスの間、オプションでドメインユーザーアカウントを入力するか、ローカルシステムアカウントでインストールするか決めるように要求されます。

インストールが完了すると、ご利用のウェブブラウザが自動的に起動してPortfolio Server Admin Webインターフェイスが開きます。

### ドメインユーザーアカウントオプション

Portfolio Serverをインストールするのに推奨される方法としては、Portfolio Serverのサービス（Portfolio Server、Portfolio Server Admin）を実行するのに使用するユーザー名とパスワードを利用します。ドメインユーザーアカウントを入力する場合、Catalogの対象となり、Portfolio Serverのユーザーが利用できるようにするためのファイル（「プレビュー」を含む）を含んでいるすべてのネットワークロケーションに対して、そのアカウントが完全な読み取り/書き込みを行うアクセス権をあらかじめもっている必要があります。このアカウントは、Portfolio Serverのプログラムディレクトリやシステムファイルを完全に制御できるように、ローカルの管理者グループのメンバーでもある必要があります。さらに、アカウントがWindowsサービスとして実行されるためには、「ローカルセキュリティポリシー」コンソールの中で「サービスとしてログオン」特権を与えられる必要があります。このオプションを利用するには、ドメインユーザーアカウント（できれば、Portfolio Serverサービス専用のアカウント）を作成し、Portfolio Serverのインストーラを実行する前に、そのアクセスを設定する必要があります。

**注意：** 通常、ドメインユーザーアカウントは、ユーザーにパスワードの変更を頻繁に要求するシステムポリシーに従います。このオプションを使用する場合、使用するアカウントがこのポリシーに制約されないようにしてください。そうしないと、パスワードがサービスの認証に失敗し、サーバーコンソールでパスワードの変更に対処するまでPortfolio Serverが動作しません。

## ローカルシステムアカウントオプション

Windowsシステム上のPortfolio Serverに、カタログの対象となり、Portfolio Serverのユーザーが利用できるようにするためのファイルがすべて含まれている場合は、ネットワークアクセス用にドメインユーザーアカウントを設定する必要はありません。単に、「ローカルシステム」オプションを選択します。

インストールの最後に、Portfolio Server Admin Webインターフェイスが、デフォルトのウェブブラウザで自動的に開きます。

## Macintoshへのインストール

Portfolio Serverのインストールは素早く簡単に行えます。サーバーにインストーラをダウンロードして、それをダブルクリックし、後は、インストーラのガイドに従います。

インストールが完了すると、ご利用のウェブブラウザが自動的に起動してPortfolio Server Admin Webインターフェイスが開きます。

## Macintosh へのインストールの際に考慮すること

Mac OS Xでは、Portfolio Serverはインストールの際にユーザーとしてログインする必要があります。以下も同様です：

- ユーザーアカウントは、カタログに登録したファイルが置かれているすべてのネットワーククォーレーションに対して読み/書きのアクセス権を持っている必要があります。
- Office ドキュメントを登録したい場合には、OpenOffice.org は同じユーザーアカウント内にインストールされている必要があります。

そのほかの注意点：

- リモートボリュームをマウントしてカタログ化したい場合は、Portfolio Serverが継続的にこのボリュームにアクセスできるように、これらのコンピュータにログインし続ける必要があります（コンピュータスクリーンはロックしても大丈夫です）。
- OpenOffice.org がインストールされている場合には、Portfolio Server がOffice ドキュメントをカタログ化できるように、コンピュータにログインし続ける必要があります。
- Macintoshのデスクトップクライアントから、Macintosh 上のPortfolio Server に接続する場合は、Portfolio Server と同じリモートボリュームをマウントする必要があります。これによってクライアントとサーバーシステムがアセットとプレビューに対して同じディレクトリパスを持つことができます（ウェブクライアントを利用する場合や、Windows上でのPortfolio Serverに接続する場合は不要です）。
- Portfolio Server がポート80と443を利用するように設定している場合には、他のWebサーバーは使用停止にしたほうが良いでしょう。Mac OS X Serverでは、デフォルトのWebサーバーはServer Admin utility（OS X Server v 10.5）またはServer Preferences application（OS X Server v 10.6）から停止できます。Mac OS Xでは、システム環境設定内でWeb共有のチェックが外れていることを確認してください。

## Web クライアントポート

デフォルトでは、Portfolio Serverは、Webクライアント用のポートに8090と9443（SSL用）を利用します。多くの場合、この設定を変更する必要はありません。しかし、もし1024より低い数値に変更する場合には、Portfolio Serverをルートユーザーアカウント以下にインストールする必要があります。

Mac OS

Xのサーバーバージョン以外を利用する場合は、デフォルトではルートユーザーは利用できません。ルートユーザーを利用可能にするには、以下のサイトを参照してください：

[http://support.apple.com/kb/HT1528?viewlocale=ja\\_JP](http://support.apple.com/kb/HT1528?viewlocale=ja_JP)

Mac OS X Serverでは、デフォルトでルートユーザーが利用できます。

## アンインストール

WindowsでPortfolio Serverをアンインストールする場合は、コントロールパネルを開いて、プログラムの追加と削除内の、**Portfolio Server**を選択してから、変更と削除をクリックして、画面の指示に従います。

Macintoshでは、以下の場所にあるアンインストーラをダブルクリックしてください:

```
/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/Uninstaller/Portfolio  
Server 9.5 Uninstaller.pkg
```

インストーラのガイドに従います。

## Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開く

Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開くには:

1. サポートされているウェブブラウザを開きます。
2. アドレスのフィールドに、サーバーのIPアドレス、コロン、ポート番号の順に入力します。デフォルトのサーバー管理ポートは、8091 です (JBoss HTTP/ウェブサービスポートとも呼ばれる)。  
例: `http://192.168.0.1:8091`または`http://localhost:8091`
3. 管理者のユーザーおよびパスワードを入力します。デフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは、**administrator**および**password**です。

**注意:** インストール後、できるかぎり速やかに管理者パスワードを変更することが重要です。

## 安全に接続する

Server Admin

WebインターフェイスにSSLを使って安全に接続することもできます。これによってサーバーとブラウザ間が暗号化されたやり取りになります。

Server Admin Webインターフェイスを安全に接続するには:

1. サポートされているウェブブラウザを開きます。
2. アドレスのフィールドに、サーバーのIPアドレス、セキュアポートを入力します (Jetty Web App HTTPS ポート)。デフォルトのサーバー管理ポートは、9453です。  
例: `http://192.168.0.1:9453` または `http://localhost:9453`

**注意:** Portfolio

Serverは、安全な (SSL) 接続のためのデフォルト、自己署名されたセキュリティ証明書を含みます。このセキュリティ証明書は、ユーザーが独自にカスタム証明書を入手することなく、Portfolio Server管理インターフェイス (Web) との安全な接続を可能とします。デフォルトのセキュリティ証明書を利用して接続を行う場合、ブラウザ上でいくつかのセキュリティの警告が表示されます。これらの警告は、自己署名されたセキュリティ証明書の内容を示しますが、Portfolio Serverとの安全な接続関係を作成することができます。ほとんどのブラウザは、ユーザーがセキュリティ例外を記録するか、自己署名されたセキュリティ証明書を信頼することができる機能を持っています。これによって、それ以降に警告が表示されることを回避することができます。詳細は、ご利用のブラウザのドキュメントをご覧ください。安全に利用していただくために、Extensisでは[カスタムセキュリティ証明書の利用](#)を推奨しています。

3. 管理者のユーザーおよびパスワードを入力します。

## 管理者パスワードの変更

最適なセキュリティを得るために、インストール後、できるかぎり速やかにサーバー管理者のパスワードを変更することが重要です。これにより、不正なユーザーがサーバー設定を変更できないようになります。

管理者パスワードを変更するには：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開き](#)、**administrator**でログインします。
2. メインメニューから、「ユーザー」リンクをクリックします。
3. ユーザーのリストから、**administrator**のユーザー名を選択します。
4. 「詳細」パネルで、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに新しいパスワードを入力します。
5. 「適用」をクリックします。

**重要**新しい管理者パスワードをメモし、安全な場所に保管してください。紛失した管理者パスワードを取り戻すのは容易ではありません。

## Portfolio Serverのライセンス番号の入力

Portfolio Serverは、さまざまな方法でライセンスされます。必要な機能に応じたライセンス番号を入力する必要があります。

Portfolio Server Admin Webインターフェイスを使用するライセンスを入力し、Portfolio Server、ウェブクライアント接続、およびなどの追加機能を有効にします。

ライセンス番号は、クライアント接続の有効な番号を含むように暗号化されており、追加の機能を有効化するのにも使用されます。各サーバーに追加できるのは、クライアント接続を登録するPortfolio Serverライセンス番号のうち1つのみです。

Portfolio Serverにライセンスを付与するには：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「ライセンス」リンクをクリックします。
3. 「新規ライセンスを追加」をクリックします。
4. 有効なライセンス番号を入力し、「ライセンスを追加」をクリックします。

## 既存のカタログの更新

Portfolio Serverでは、既存のカタログを新しいサーバーで使用するために更新できます。Portfolio Serverのファイルセットおよびネットワークロケーションが以前のPortfolio Serverの実装から変更されていない場合は、この更新はエンドユーザーにとってはシームレスに行われます。

### 既存のカタログからのユーザーのインポート

#### ユーザーベースのカタログ

ユーザーベースのカタログを更新すると、以前のユーザーがサーバーに自動的に追加されます。これらのユーザーには、更新されたカタログに対するメンバシップが、以前のユーザーレベルのもとで付与されます。このユーザーの転送は、Portfolio Serverでカタログが提供される場合にのみ行われます。

#### アクセスベースのカタログ

ユーザーがアクセスレベルとパスワードを使用してカタログにアクセスする場合は、それらのユーザーが更新されたカタログにアクセスできるようにするために、それぞれのカタログにユーザーを追加する必要があります。たとえば、ユーザーが以前は「発行者」のアクセスレベルを選択し、この発行者のアクセスレベル専用のパスワードを入力していた場合は、これらの個々のユーザーに対して固有のユーザー名およびパスワードを入力する必要があります。アクセスレベルによるアクセスは、Portfolio 9ではサポートされません。

## オートシンクおよびオートシンクフォルダ

カタログの中にオートシンクの監視フォルダがあり、カタログをPortfolio Server 9に更新する際には、これらの監視フォルダをオートシンクフォルダとして再度追加する必要があります。カタログが更新されると、すべてのアイテムはカタログ内に残りますが、元のファイルにアクセスできるようにするには、監視フォルダをオートシンクフォルダとして再度追加する必要があります。詳細については、[オートシンク](#)を参照してください。

## Portfolioネイティブカタログの更新

Portfolioの以前のバージョンからのカタログを使用し続けるには、新しいサーバーで使用するためにネイティブの.fdbカタログファイルを更新する必要があります。

既存のPortfolio 8.5カタログの更新方法：

1. カatalogファイルのバックアップを作成します。
2. カatalog.fdbファイルを、Portfolio Serverがインストールされている次の場所にコピーします。

Macintosh: /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/Catalogs/

Windows: \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\Catalogs\

3. [Portfolio Serverを再起動します](#)。

## プレビューファイルおよびPortfolio共有カタログ

低解像度の画面プレビューを含むカタログを更新する場合は、プレビューへのネットワークパスが変更されない限り、既存のプレビューファイルを保持するのにその他の手順は必要ありません。

プレビューの場所がネットワークパスではアクセスできない場合は、サーバーがアクセス可能な共有に該当するプレビューを移動し、Portfolio Server Adminインターフェイスの中で新しいネットワークロケーションへのパスを更新します。

プレビューディレクトリのネットワークロケーションが変更された場合は、Portfolio Serverにカタログを通常どおりに追加し、[プレビューディレクトリ](#)の新しいネットワークロケーションを指定します。

Portfolio Serverによるカタログ内のアセットへの既存のプレビューディレクトリのリンクが失敗する場合は、Portfolio Serverにカタログ用のプレビューファイルを再作成させる必要があります。

カタログの画面プレビューを再作成するには：

1. Portfolio Server Admin Webインターフェイスを使用して、カタログ用の[画面プレビューを有効化](#)します。
2. Portfolioデスクトップクライアントを使用してカタログに接続します。
3. 任意のギャラリー内で、プレビューを再作成するためにアイテムを選択します。すべてのアイテムに対してプレビューを再作成するには、「**すべてのアイテム**」ギャラリーを選択し、メインウィンドウで任意のアイテムを選択してから、**Ctrl+A** (Win) または **Command+A** (Mac) を押して、カタログ内のすべてのアイテムを選択します。
4. 「**アイテム**」 > 「**サムネールの再作成**」を選択します。サムネールを再作成するプロセスで、新しい画面プレビューファイルが作成されます。

# サーバーのステータス

Portfolio Serverの管理は、すべてPortfolio Server Admin Web インターフェイスの内部で行われます。いくつかのカタログオプションは、Portfolio デスクトップクライアントで行えますが、管理者は、ウェブインターフェイスを使用してカタログの作成および管理、さらにはユーザーアカウントの管理ができます。

Portfolioカタログに含まれるデータは、Portfolio デスクトップおよびウェブクライアント経由でアクセスされます。

## Portfolio Serverの起動

デフォルトでは、インストール後またはシステムの再起動後に、サーバーが自動的に起動します。必要に応じて、サーバープロセスを手動で起動または再起動できます。

サーバーの起動方法：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「ステータス」リンクをクリックします。
3. 「ステータス」ページで、「サーバーを起動」ボタンをクリックします。

サーバーが現在実行中の場合は、「サーバーを起動」ボタンが「サーバーを再起動」ボタンに変わります。Portfolio Serverプロセスをシャットダウンし、自動的に再起動させるには、このボタンをクリックします。

## ポート

Portfolio Serverでは、サーバー上のさまざまなポートが必要になります。これらのポートは、クライアントの接続、サーバーの管理、および内部サーバー通信に使用されます。

Portfolio Serverで使用されるすべてのポートが、サーバー上の他のアプリケーションと競合しないようにする必要があります。通常は、これらのポート設定を変更する必要はありません。

ホストシステムのファイアウォールおよびオペレーティングシステムで外部ポートを開く必要があります。ポートを開くプロセスは、オペレーティングシステムごとに異なります。詳細については、Mac OS X ServerおよびMicrosoft Windowsのマニュアルを参照してください。

## 外部通信用のポート

Portfolio Serverでは、サーバーを管理し、Web クライアントやデスクトップクライアントの接続、Portfolio Media Engine処理を実行するために、多くのポートを開く必要があります。

これらのポートは、サーバーの管理とウェブクライアントの接続の両方に定期的に使用されます：

ポート	初期設定
JBoss HTTP / Web サービスポート (Webクライアントポート)	8090
Jetty Web App HTTP ポート(サーバー管理ポート)	8091
Jetty Web App HTTPS ポート(SSL サーバー管理ポート)	9453
ネイティブサーバーコンポーネントポート	2903
MediaRich Embedded サーバーポート	9877

**セキュリティ接続注意：**Portfolio Serverは、Portfolio Server Admin Webインターフェイスへの安全な（SSL）接続のためのデフォルト、自己署名されたセキュリティ証明書を含みます。このセキュリティ証明書は、ユーザーが独自にカスタム証明書を入手することなく、Portfolio Server管理インターフェイス（Web）との安全な接続を可能とします。デフォルトのセキュリティ証明書を利用して接続を行う場合、ブラウザ上でいくつかのセキュリティの警告が表示されます。これらの警告は、自己署名されたセキュリティ証明書の内容を示しますが、Portfolio

Serverとの安全な接続関係を作成することができます。ほとんどのブラウザは、ユーザーがセキュリティ例外を記録するか、自己署名されたセキュリティ証明書を信頼することができる機能を持っています。これによって、それ以降に警告が表示されることを回避することができます。詳細は、ご利用のブラウザのドキュメントをご覧ください。

**重要：**SSLウェブクライアント接続は、独自に取得するセキュリティ証明書が必要になります。SSLウェブクライアント接続では、デフォルトの自己署名されたセキュリティ証明書の利用をサポートしていません。

### JBoss HTTP /Webサービスポート (Webクライアントポート)

これは、ウェブクライアントのユーザーがサーバーに接続する際、またはカスタムセキュリティ証明書を利用している場合、SSL暗号で利用するポートです。暗号ポートはウェブクライアントとPortfolio Server間の暗号化を実行するために若干パフォーマンスが落ちます。ファイアウォール内の社内のネットワークで利用する場合は、標準的なウェブクライアントポートを使って直接接続したいと思うかもしれませんが、SSLウェブクライアントの接続は外部のネットワークからのみ接続が可能です。

Webクライアントがサーバーにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバー IP アドレスまたは DNS 名
- Webクライアントポート番号。デフォルトのポート設定は、8090です。カスタムセキュリティ証明書を利用している場合は、セキュア (SSL) Webクライアントのデフォルトのポート設定は9443です。
- Portfolio ユーザー名とパスワード

### Jetty Web App ポート (Portfolio Server Admin ポート)

このポートは、Portfolio Server Admin Webインターフェイスに接続している管理者がPortfolio Serverを管理するのに使用されます。デフォルトのポート設定は、HTTP 8091、またはHTTPS 9453です。

Portfolio Server Admin Webインターフェイスにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバーのIPアドレスまたはDNS名
- Portfolio Server Admin ポート番号。Server Adminポート (デフォルト値8091)、またはセキュア (SSL) Server Adminポート (デフォルト値9453)
- 管理者のアカウント名およびパスワード

### ネイティブServerポート (Portfolioデスクトップクライアント接続ポート)

PortfolioデスクトップクライアントがPortfolio Serverと接続するには、2903ポートが使用されます。このポートは、クライアントとサーバー間の通信および接続に使用されます。

Portfolioデスクトップクライアントがサーバーにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバーのIPアドレスまたはDNS名
- クライアントのアカウント名およびパスワード

**注意：**Portfolioデスクトップクライアントには、ネイティブのサーバーコンポーネントのポート情報は必要ありません。これは、デフォルトでは、デスクトップクライアントがポート2903に接続するためです。

**注意：**ネイティブのサーバーコンポーネントがデフォルト設定から変更された場合、Portfolioデスクトップクライアントは、Portfolio Serverに接続する方法を変更する必要があります。この変更を行うには、Portfolioデスクトップクライアント内で、「ファイル」>「サーバーへ接続」へ移動し、既存のサーバー接続を編集するか、新しいサーバーを追加します。サーバー接続のIPアドレスには、変更したポート番号を適切に付加します。

例:ネイティブのサーバーコンポーネントのポートが2905に変更された場合、Portfolioデスクトップクライアントのユーザーは、サーバーダイアログに接続するサーバーのIPアドレス: 192.168.0.1:2905内を、変更したポートに追加する必要があります。

## 内部通信用のポート

Portfolio Serverでは、内部通信用にさまざまなポートが予約される必要があります。サーバーには、多くの標準Java J2EEおよびウェブサービスポートが必要です。

サーバー上で、Javaを必要とする他のアプリケーションが実行されている可能性があります。Portfolio Serverでは、Javaの自己完結型のバージョンが実行されるので、ポートの競合（コンフリクト）が発生しない限り、同じマシン上で他のJavaおよびウェブサービスアプリケーションを実行させることが可能です。

ポートの競合を避けるには、「ポート」ページを使用して、Portfolio Serverに新しいポート番号を割り当てます。

Portfolio Serverの内部通信には次のポートが必要です。

ポート	デフォルト値
JBossウェブサービス	8093
JBoss AJP	8019
ブートストラップJNPサーバーバインドアドレス	1109
JMX プール済みポート	4455
JMX RMIオブジェクトポート	4454
RMIネーミングサービス	1008

**注意：**Portfolio Serverでは、サーバーのカタログ作成とPortfolioデスクトップクライアントのアセット取得の両方のために、内部ネットワークの共有へのアクセスに追加で標準ポートを2つ使用します（SMBマウントの共有には、ポート445、AFPマウントの共有には、548）。これらのポートは、デスクトップクライアントユーザーがPortfolio Serverコンピュータにアクセス共有が必要な場合に必要です。Portfolio Serverがオートシンクのアセットやウェブクライアントからのアクセスを可能にするために、オリジナルアセットが置かれているリモートファイルサーバーもこれらのポートが必要になります。

## ポート競合の解決

Portfolio Serverのインストーラは、デフォルトサーバーの管理ポート8091(Jetty Web App)が別のアプリケーションで使用されているかどうかをチェックします。このポートがすでに使用されている場合は、Portfolio Server Admin Webインターフェイスが開く前に、別の利用可能なポートがランダムに選択されます。

インストール完了後、Portfolio Server Admin Webインターフェイスがデフォルトのポート8091を使って開きます。他のポートで開いた場合は、他のポートが競合している可能性があります。インストーラは自動的に他のポートが競合していないかどうかをチェックして、`extensis.admin.log`ファイル内に記録します。

サーバーは、標準のJBossおよびJettyポートを使用します。この技術を使用して構築されているその他のアプリケーションがサーバー上に存在する場合は、デフォルトのPortfolio Serverポート番号を変更する必要がある場合があります。

Portfolio Serverが使用するポート番号を変更するには：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「ポート」リンクをクリックします。
3. 新しいポート番号が必要なポートごとに新しいポート番号を入力するか、「ポートを検索」をクリックして、オープンなポートを自動的に検索します。
4. 「ポート」ページの下部にある「ポートを変更」リンクをクリックします。
5. [Serverを再起動します。](#)

## カスタムセキュリティ証明書の利用

Portfolio では、Portfolioウェブクライアント、Portfolio Server Admin Webインターフェイスのどちらでもサーバーに接続する際に、安全な接続（SSL）方法を利用することができます。

Portfolioのインストール時にはPortfolio Server Admin

Webインターフェイス用のみで利用できるデフォルトで署名付きのセキュリティ証明書が含まれています。

PortfolioウェブクライアントがSSL接続でき、サーバー管理者へのセキュリティ忠告を削除するには、利用する組織用のカスタムセキュリティ証明書の入手が必要です。カスタムセキュリティ証明書は[Verisign](#)や[Thawte](#)など、多くの信頼できるオンラインロケーションから有償で入手することができます。

カスタムセキュリティ証明書を利用するには:

1. 証明書の発行機関からカスタムセキュリティ証明書を入手します。
2. Portfolio Serverをシャットダウンします。
3. server.xml  
ファイルを編集して、SSLウェブクライアント接続を可能にします（方法は以下を参照してください）。
4. keystoreにカスタム証明書を埋め込みます（方法は以下を参照してください）。
5. Portfolio Serverを再起動します。

## server.xml ファイルの編集

server.xmlファイルを編集してSSLウェブクライアント接続するには:

1. 以下の場所にあるserver.xmlファイルをバックアップして、問題がないことを確認します。  
**Macintosh:**/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/jboss/server/default/deploy/jbossweb-tomcat55.sar/server.xml  
**Windows:**C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\jboss\server\default\deploy\jbossweb-tomcat55.sar\server.xml
2. テキストエディタやノートパッドなどのテキスト編集ツールを使って、オリジナルの server.xml ファイルを開きます。
3. <!-- SSL/TLS Connector configuration, uncomment below for SSL -->という行を見つけます。
4. この行のすぐ跡にあるコメントブロックを削除します。 <!-- <Connector port=...から始まり、keyAlias="extensis"/> --!>までを削除します。

```
<!-- SSL/TLS Connector configuration, uncomment below for SSL -->
<!-- <Connector port="9443" address="{jboss.bind.address}"
    maxThreads="40" strategy="ms" maxHttpHeaderSize="8192"
    emptySessionPath="true"
    scheme="https" secure="true" clientAuth="false"
    keystoreFile="{jboss.home.dir}/../../data/keystore"
    keystorePass="kaq8thefUphuTrexesW3sp3m" sslProtocol="TLS"
    keyAlias="extensis"/>
-->
```

5. server.xmlファイルをUTF-8テキストファイル形式で保存します。

### 注意:

SSLウェブクライアントポートを変更したい場合は、接続ポート値を編集することができます。例えば、ポート番号を9876に変更したい場合は、<Connector port="9876">と編集します。

### 重要: server.xml

ファイル内の他の項目は変更しないでください。変更を行うと、サーバーの動作に問題を引き起こしたり、サーバーが動かなくなる可能性があります。

## カスタムセキュリティ証明書の埋め込み

カスタム証明書を手に入れたら、 **keytool** アプリケーションを使って、新規の証明書をPortfolioのkeystoreに差し込みます。Mac OS Xでは、**keytool**はOSにプリインストールされています。Windowsでは、Portfolio Serverのインストーラが必要なコンポーネントをシステムに入れます。

< angle brackets >の名前は、実際のファイル名で置き換えてください。

**注意:**以下の作業を実行するには、管理者権限でコンピュータにログインする必要があります。

### Macintosh

コマンドを入力する際は、一行で全コマンドを入力した後、*Return*を押してください。

1. ユーティリティフォルダにあるターミナルアプリケーションを起動します。
2. Portfolio Serverのデータディレクトリに移動します。  

```
cd /Applications/Extensis/Portfolio\ Server/data
```
3. keystore  
ファイル名を変更してバックアップするようにします（新規のkeystoreファイルを次のステップで作成します）。  

```
mv keystore keystore.backup
```
4. 新しいkeystore ファイルを生成します。  

```
keytool -keygen -keyalg RSA -keystore keystore -alias extensis
```

**注意:**デフォルトのキーサイズは1024です。;大きなキーが必要な場合には、上記のコマンドの最後に `-keysize <new_size>` を追加します。例:  

```
keytool -genkey -keyalg RSA -keystore keystore -alias extensis -keysize 2048
```
5. パスワードの画面が表示されたら、kaq8thefUphuTrexesW3sp3mを入力してReturnを押します。  
**注意:**このパスワードを利用しないとSSLは動きません。
6. 氏名を入力する欄が表示されたら、必要なホスト名を入力します ("my.host.com"等)。(リマインダは空欄で問題ありません。)
7. 証明書署名リクエスト (CSR) を生成します。 **このステップはオプションです!** Portfolio では、keytoolで作成されたCSRのみ受け付けます。Open SSLからのCSRの取り込みはできません。  

```
keytool -certreq -keystore keystore -keyalg RSA file certreq.csr -alias extensis
```
8. 上記で作成したCSRを使って新機SSL証明書を生成します。この手順は利用している環境によって異なります。自社のシステム管理者に連絡して行ってください（作成したCSRと共にCA証明書が必要です）。
9. 認証機関の証明書を自身のエイリアスの下のkeystoreにインポートします。  

```
keytool -import-keystore keystore -alias rootca -trustcacerts-file <name_of_CA_cert_file>
```

中間証明書がある場合には、以下を利用します:  

```
keytool -import-keystore keystore -alias intermediary -trustcacerts-file <name_of_intermed_cert_file>
```
10. キーチェーンに新しい証明書をインポートします。

Portfolio Serverを再起動します。

## Windows

コマンドを入力する際は、一行で全コマンドを入力した後、Returnを押してください。

1. cmd.exeを使ってコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. Portfolio Serverのデータディレクトリに移動します。  
`cd "c:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data"`
3. keystore  
ファイル名を変更してバックアップするようにします（新規のkeystoreファイルを次のステップで作成します）。  
`move keystore keystore.backup`
4. 新しいkeystore ファイルを生成します。  
`keytool -keygen -keyalg RSA -keystore keystore -alias extensis`  
**注意:** デフォルトのキーサイズは1024です。;大きなキーが必要な場合には、上記のコマンドの最後に `-keysize <new_size>` を追加します。 例:  
`keytool -genkey-keyalg RSA -keystore keystore -alias extensis -keysize 2048`
5. パスワードの画面が表示されたら、 `kaq8thefUphuTrexesW3sp3m`を入力してReturnを押します。  
**注意:** このパスワードを利用しないとSSLは動きません。
6. 氏名を入力する欄が表示されたら、必要なホスト名を入力します ("my.host.com"等)。(リマインダは空欄で問題ありません。)
7. 証明書署名リクエスト (CSR) を生成します。 **このステップはオプションです!** Portfolio では、keytoolで作成されたCSRのみ受け付けます。Open SSLからのCSRの取り込みはできません。  
`keytool -certreq -keystore keystore -keyalg RSA file certreq.csr -alias extensis`
8. 上記で作成したCSRを使って新機能SSL証明書を生成します。この手順は利用している環境によって異なります。自社のシステム管理者に連絡して行ってください（作成したCSRと共にCA証明書が必要です）。
9. 認証機関の証明書を自身のエイリアスの下のkeystoreにインポートします。  
`keytool -import -keystore keystore -alias rootca -trustcacerts -file <name_of_CA_cert_file>`  
中間証明書がある場合には、以下を利用します:  
`keytool -import -keystore keystore -alias intermediary -trustcacerts -file <name_of_intermed_cert_file>`
10. キーチェーンに新しい証明書をインポートします。

[Portfolio Serverを再起動します。](#)

## セキュアポートリダイレクト

ウェブクライアントユーザーが常にセキュアポートを使って接続するために、リダイレクトを利用することができます。リダイレクトはオプションの手順で、SSLポートを使用するのに必須ではありません。

web.xml

ファイルを編集して通常のウェブクライアントポート（デフォルト値8090）から、セキュア接続ポート（デフォルト値9443）へリダイレクトさせます。.

リダイレクトを利用するには:

1. 以下の場所にあるファイルをノートパッドやテキストエディットなどのテキスト編集ツールで開きます。

**Macintosh:**/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/  
jboss/server/default/deploy/portfolio.ear/portfolio.war/WEB-INF/web.xml

**Windows:**C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\  
jboss\server\default\deploy\portfolio.ear\portfolio.war\WEB-INF\web.xml

2. 検索機能を使って、"transport-guarantee"パラメータが含まれる行を検索します。以下のようにNONEパラメータをCONFIDENTIALパラメータへ変更します。

```
<transport-guarantee>NONE</transport-guarantee>
```

以下に変更

```
<transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
```

3. 保存して web.xml ファイルを閉じます。

## サーバーの再起動

Portfolio Serverを再起動する必要がある場合は、Portfolio Server Admin Webインターフェイスを使用して行います。これにより、すべてのプロセスが適切にシャットダウンされ、再起動されます。

サーバーの再起動時には、接続しているクライアントの接続が、現在オープンになっているカタログから自動的に切断されます。Portfolio Serverが再起動されると、クライアントは通常通り接続を再開できます。

Portfolio Serverを再起動するには：

1. ユーザーにサーバーを再起動することを通知します。
2. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
3. メインメニューから、「ステータス」リンクをクリックします。
4. 「ステータス」ページで、「サーバーを再起動」ボタンをクリックします。

再起動コマンドを実行すると、サーバーが再起動する間、データベースへのクライアントの接続と管理者のPortfolio Server Admin Webインターフェイスへの接続が切断されます。

物理的にサーバーマシン本体を再起動する必要がある場合、サーバーシステムが起動すると、Portfolio Serverは自動的に起動する仕組みになっています。

**注意：**Portfolio Server Admin Webインターフェイスを制御するプロセスは、システムが起動する際に自動的に起動されます。そのため、Portfolio Serverが実行されていない場合でも、Webインターフェイスは常に利用可能です。

## 表示言語の変更

Portfolio Server Admin Webインターフェイスの言語は、「ログイン」ページの「言語」ドロップダウンメニューを使用してログイン時に設定されます。Portfolio Server Admin Webインターフェイスでは、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、および日本語での管理がサポートされます。

現在の言語設定を変更するには：

1. Portfolio Server Admin Webインターフェイスからログアウトします。
2. メニューから新しい表示言語を選択し、ログインします。デフォルトの表示言語は英語です。

# カタログ

## カタログの作成

Portfolio Server Admin Webインターフェイスから、管理者はPortfolioカタログを作成および管理できます。これらのカタログは、その後、PortfolioデスクトップクライアントおよびPortfolioウェブクライアントによってユーザーが利用できるようになります。

Portfolio カatalogを作成するには：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「**カタログ**」リンクをクリックします。
3. 「**カタログ**」パネルで、「**新規カタログを追加**」リンクをクリックします。
4. カatalogに[カタログの種類](#)を指定します。
5. データベースの種類を選択します。
  - **ネイティブ (FDB)** - これは、Portfolio Serverにおけるデフォルトのデータベースの種類です。
  - **SQL**
6. カatalog名を入力します。
7. ドロップダウンメニューから「**照合**」を選択します。この設定は、データベース内に保存されている情報を並べ替え時に利用する言語です。
8. 「**作成**」をクリックします。

新しいカタログの作成が完了すると、次のことを行う準備が整います。

- [カタログへのユーザーの追加](#)
- 特定のニーズを満たすために、[カタログのカスタマイズ](#)
- [画面プレビューファイルの有効化](#)

## カタログパフォーマンスと最大サイズ

ネイティブFDBカタログの最大サイズとその効果的なパフォーマンスは、多くの要素が影響します。一般的には、たくさんアイテム、データフィールドが多く入力量が多い、データのボリュームが大きいなどが影響を与えます。以下の項目がカタログのパフォーマンスに影響します：

- カatalogに登録されているアイテム数
- サムネイルサイズ (112 ピクセルか256 ピクセル)
- カスタムフィールドの数
- フィールドから抽出されたメタデータの量
- 各フィールド内のデータ量 (例えば短い文章か長い文章など)
- テキストインデックスが実行されているかどうか

## カタログの種類

カタログの種類を使用すると、特定の目的のために新しいカタログを設定する作業がより簡単に素早く行えます。新しいカタログを作成する際にいくつかのカタログの種類から選択することができます。基本的に、それぞれのカタログの種類は、カタログをさらにカスタマイズするための出発点の働きをします。

カタログの種類では、主に、それに含まれるカスタムフィールドの数と種類が異なります。Portfolio Server Admin Webインターフェイスを使用すると、お客様のニーズを満たすのに最も適したカタログの種類を選択できます。

- 汎用
- 簡易

カタログの種類を選択する利点は、時間の観点から評価できます。Portfolioでは、自動的にカスタムフィールドが作成されるので、必要な設定時間はかなり短くなります。また、多数のカスタムフィールドが必要でない場合は、カタログ内のアイテムへのアクセスおよび検索が速く行えるようになります。

最初にどのカタログの種類を選択したかにかかわらず、特定のニーズに合うようにカスタムフィールドを追加および削除したり、メタデータのマッピングを変更したりできます。

- **汎用** –

「汎用」のカタログの種類には、EXIF、IPTC、およびXMPフィールドを含む、さまざまなメタデータ用のデフォルトのカスタムフィールドが多く含まれています。カタログにこれらのすべてのフィールドを含める場合、またはカタログにどの種類のメタデータを含めるべきか確かでない場合は、このカタログの種類を使用します。

- **簡易** –

「簡易」のカタログの種類には、カスタムフィールドが含まれておらず、ファイルからメタデータを抽出するには設定されていません。簡易カタログの種類は、手動による設定が必要な特定のカスタムフィールドや、メタデータの抽出設定が必要な複雑なカタログの出発点として役立ちます。このカタログの種類には、「キーワード」および「説明」のフィールドが含まれていますが、これらのフィールドにはメタデータを抽出するように設定できます。キーワードは、パスに従ってカタログ内で自動的に作成されます。

## カタログの種類のカスタム作成

カタログ作成に使用できるデフォルトのカタログの種類に加えて、管理者は、将来カタログを作成する際に使用できるように、サーバー上で使用する独自のカスタマイズされたカタログの種類を作成できます。管理者は、既存のカタログの種類をベースに、カタログの種類に表示されるカスタムフィールドを定義できます。カスタマイズされたカタログの種類を作成するには、以下の手順に従います。

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開き](#)、既存のカタログの種類の一つに基づいて、新しいカタログを作成します。ユーザーを新しいカタログに割り当て、そのユーザーに管理者のアクセス権限を付与します。このユーザーの権限を使用して、この後カタログに接続します。
2. Portfolioデスクトップクライアントを起動し、新しいカタログに管理者モードで接続します。管理者モードで接続するには、『Portfolioデスクトップクライアントユーザーガイド』を参照してください。
3. カatalogをカスタマイズします。カスタムのカタログの種類を変更する場合は、カタログ作成の詳細オプション、カタログ管理設定、およびメタデータ設定の3つの領域を検討します。詳細については、『Portfolioデスクトップクライアントユーザーガイド』を参照してください。
4. 終了したら、「ファイル」>「**カタログタイプの保存**」を選択します。
5. Windows ExplorerまたはMacintosh Finderを使用して、カスタムのカタログの種類を保存したシステム上にあるPortfolioデスクトップクライアントのプログラムディレクトリを参照します。

Macintosh:

/アプリケーション/Extensis/Portfolio/日本語/カタログのタイプ/

Windows XP:

\Program Files\Extensis\Portfolio\Locale\9\Support\Catalog Types\

Windows Vista または 7:

\Users\\AppData\Local\VirtualStore\Program Files\Extensis\Portfolio  
9\Locale\9\Support\Catalog Types\

6. カatalogの種類は、カタログ名の付いたディレクトリの中に保存されています。Portfolio Serverのあるサーバーシステムの次のディレクトリに、カタログの種類ディレクトリをコピーします。

Macintosh:

/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/data/catalog-  
settings/Japanese/Catalog Types/

Windows:

\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data\catalog-settings\Japanese\Catalog Type\

7. Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開き、[サーバーを再起動します](#)。
8. Portfolio Server Admin Webインターフェイスに再度ログインします。メインメニューから、「**カタログ**」リンクをクリックします。新しいカタログを追加する際、カスタムのカタログの種類が「種類」ドロップダウンメニューに表示されるようになります。

## 画面プレビュー

Portfolioでは、カタログに登録した各画像のプレビュー画像を作成します。これによりディスク上の画像データにアクセスしなくても、デスクトップクライアント、ウェブクライアントから高品質のプレビューをカタログ内で見ることができるようになります。

Portfolio

Serverでアイテムがカタログに登録される際に、プレビュー作成と保存の設定を行えます。また後から必要な時に作成することもできます。

- オフラインのアイテムをプレビューできます。たとえば、画面プレビューを作成した場合は、CDがマウントされていなくても、CDまたはDVDからカタログ化されたアイテムのフルサイズのプレビューを表示できます。
- ユーザーがPortfolioウェブクライアントに接続し、カタログ内のイメージをウェブブラウザの表示可能な領域いっぱいに表示できます。

Portfolio

Serverに画面プレビューを保存すると、カタログ作成プロセスが遅くなり、より多くのディスク容量を必要とします。プレビューを参照のたびに作成させるようにすると、ディスク容量は小さくて済みますが、デスクトップクライアントやウェブクライアントから画像をプレビューする際に表示が遅くなります。

## 画面プレビューの有効化

画面プレビューを有効にするには：

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「**カタログ**」リンクをクリックします。
3. 「**カタログ**」パネルで、カタログを選択します。
4. 「**詳細**」パネルで、「**プレビュー**」タブを選択します。
  1. **カタログ作成の処理時間や保存容量を削減するには、プレビューを保存しません:**

このオプションを選択すると、Portfolio Serverはクライアントが要求した際にのみプレビューを作成します。カタログ作成にかかる時間が短縮され、Portfolio Server システムのディスク容量を抑えることができます。

**プレビュー表示されるまでの時間を短縮するには、このフォルダにプレビューを保存します:**このオプションは、カタログに登録される際に各ファイルのプレビューを作成します。カタログ作成の際に時間がかかり、またPortfolio Serverシステムのディスク容量が大きくなりますが、ユーザーが実際にPortfolioを使ってプレビューするときは高速になります (Portfolioがプレビュー画像を保存する場所のパスはデフォルトで自動的に入力されます。特定の場所に変更する場合、この場所はサーバーからアクセスできる場所でなければなりません。また、カタログごとに個別のパスが必要です)。
  5. 最大寸法をピクセルで指定します。プレビュー画像の長辺の最大サイズは4000ピクセルです。
  6. 「**適用**」をクリックします。画像プレビューの保存先が存在しない場合は、Portfolio Serverによって新しいディレクトリが作成されます。ネットワークパスは、Portfolio Serverがプレビューフォルダを作成できる権限が必要です。

## パスの形式

プレビューディレクトリへのファイルパスは、普遍的/ UNC(Uniform Naming Convention)形式で指定する必要があります。これは、共有パスに、たとえばマッピングされたドライブ文字ではなく、実際のサーバ、共有、および宛先ディレクトリを含める必要があることを意味します。

例：

Macintosh:

/Volumes/Xserve/Share/Previews

Windows:

\\Server\Share\Previews

**注意：** 次のようなネットワーク共有を選択してください。

- Portfolioサーバに読み取り/書き込みアクセス権がある
- 他のカタログがプレビューファイルの保存に利用していない

**注意：** MacintoshのPortfolio Serverでは、UNCパスに加えて、コロン区切りのパスを使用します。MacintoshのPortfolio Server上のカタログ用に上記の例を入力すると、次のコロン区切りのパスに自動的に変換されます。 : :Xserve:Share:Previews

## 以前にカタログ化されたファイル用に画面プレビューを作成

Portfolioでは、Portfolioデスクトップクライアントを使用して、カタログ化された後のファイルについても画面プレビューを生成できます。

1. 「プレビュー表示されるまでの時間を短縮するには、このフォルダにプレビューを保存します」を選択します。
2. Portfolioデスクトップクライアントを使用して、カタログを開きます。
3. 画面プレビューを作成するカタログ内のアイテムを選択します。
4. 「アイテム」>「サムネールの再作成」を選択します。

## カタログをオフラインにする

ユーザーがカタログへアクセスできないようにしたり、ユーザーを締め出したり、カタログのバックアップを取得したり、無制限にユーザーがアクセスできないようにするには、カタログをオフラインにできます。この方法は、カタログを削除するよりも良い方法です。なぜならば、ユーザーのすべてのアクセス設定が保持され、カタログを再度オンラインにすると、その設定がすぐに復元されるからです。

カタログをオフラインにするには:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「**カタログ**」をクリックします。
3. 「カタログ」パネルで、カタログをクリックして選択します。
4. 「詳細」パネルの「ステータス」タブで、「**オフラインにする**」をクリックします。

これでカタログがオフラインになり、ユーザーがカタログにアクセスできなくなりました。オフライン中でもカタログへのメンバシップは管理できますが、その他すべてのカタログ管理タスクがこのカタログに関しては無効になります。

オフラインのカタログは簡単に識別できます。「カタログ」パネルでオンラインのステータスが無効になります。

カタログをオンラインに戻すには:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「**カタログ**」をクリックします。
3. 「カタログ」パネルで、オフラインのカタログをクリックして選択します。
4. 「詳細」パネルの「ステータス」タブで、「**オンラインにする**」をクリックします。

## カタログの削除

カタログが不要になったら、Portfolio Serverから削除できます。カタログを削除すると、すべてのユーザーアクセスデータも削除されるので、将来的にアセットへユーザーがアクセスする必要がない場合のみ、削除するようにしてください。

あるカタログに対して、すべてのユーザーが一時的にアクセスできないようにしたいだけの場合は、削除する代わりに[カタログをオフラインにする](#)方法をお勧めします。

カタログを削除するには:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「**カタログ**」をクリックします。
3. 「カタログ」パネルの下部で、「**カタログを削除**」リンクをクリックします。
4. 「選択したカタログを削除しますか？」パネルで、「**OK**」をクリックして承認します。

標準のPortfolio FDB カatalogが削除されると、このカタログは、カタログディレクトリから削除されたカタログディレクトリに移動されます。

Macintosh: /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/deleted-Catalogs/

Windows: \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\deleted-Catalogs\

元のファイルはすべて、追加される元となった場所に残ります。プレビューファイルを使用している場合、それらのファイルも元々作成された場所に残ります。

# ユーザー

ユーザーを追加すると、それらはPortfolio Serverのユーザーデータベースに追加されます。その後、ユーザーには、サーバー上のカタログへのメンバシップが付与され、各カタログへの特定のアクセスレベルが与えられます。

## ユーザーの追加

ユーザーがPortfolioで公開されているカタログにアクセスするには、ユーザーのアカウントが必要です。管理者はユーザーアカウントを作成し、Portfolio Server Admin Webインターフェイス内のカタログへのアクセス権をユーザーに与えます。ユーザーアカウントを使用すると、Portfolio デスクトップクライアントまたはPortfolio ウェブクライアントのどちらかで公開されているカタログへもアクセスできます。

新しいユーザーを追加する場合:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「ユーザー」リンクをクリックします。
3. 「ユーザー」パネルで、「新規ユーザーを追加」をクリックします。
4. 「詳細」パネルで、ユーザーの詳細を入力します。この詳細には、「アカウント名」、「パスワード」、「フルネーム」、「電子メールアドレス」、その他の注記などがあります。
5. 「作成」をクリックします。

**注意:** 接続するには、ユーザーに[カタログのメンバシップが付与](#)されていなければなりません。

## ユーザーのカタログメンバシップの付与

サーバー上でカタログの作成とユーザーアカウントの定義の他に、管理者はどのユーザーがカタログのメンバであるかを決定できます。

ユーザーへカタログのメンバシップを付与する場合

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「カタログ」リンクをクリックします。
3. 「カタログ」パネルで、カタログを選択します。
4. 「カタログのメンバシップを管理」リンクをクリックします。
5. 詳細パネルで、一人または複数のユーザーを選択します。Command + クリック (Mac) またはCtrl + クリック (Windows) で複数のユーザーを選択できます。
6. パネルの下部のドロップダウンメニューから、このカタログのアクセスレベルを選択します。
7. 「適用」をクリックします。  
複数のユーザーにアクセス権を与えたら、必要に応じてそのユーザーのアクセスレベルを変更します。

## ユーザーアクセスレベル

ユーザーは、各自が追加されているカタログに特有の4つのアクセスレベル（管理者、発行者、編集者、閲覧者）を使用してカタログに接続します。それぞれのユーザーレベルが、ユーザーがクライアントを使用してカタログに接続した際に付与されるアクセスレベルと機能を定義しています。

Portfolioデスクトップクライアントを使用してカタログに接続するユーザー用に、次に説明するアクセスレベルおよびアクセス権が固定で設定されています。

- **カタログ管理者 -**

カタログ管理者のアクセスレベルでは、カタログユーザーは、デスクトップクライアントおよびウェブクライアントのアプリケーション内で利用可能なすべてのアクションを実行できます。これには、カスタムフィールド、マスターキーワード、オートシンクフォルダの定義、およびカタログ特有のすべての設定の実行が含まれます。カタログ管理者は、基本的には概要（フィールド、値のリスト、マッピングなど）、マスターキーワード、デフォルトカタログ作成オプション、および特定のカタログ内のその他のハイレベルな設定を定義します。カタログが、Portfolioデスクトップクライアントを使用して管理者モードで開かれると、他のユーザーはそのカタログを使用できません。ただし、管理者レベルのユーザーがPortfolioウェブクライアントを使用してカタログに接続する場合は例外です。

- **発行者 -**

発行者のアクセスレベルは、管理者よりも1つ下のレベルで、主にユーザーにカタログ内のアイテムを追加および削除させるのに使用されます。このユーザーは、データの入力も行えますが、マスターキーワードのリストを含むフィールドの変更や定義ができない点が制限されています。

- **編集者 -**

編集者のユーザーアクセスレベルは、主にデータ入力を実行する必要があるユーザー向けのものです。このレベルは、主にユーザーがカタログ内のアイテムレコードを追加または削除できないという点で発行者とは異なります。

- **閲覧者 -**

カタログ内の閲覧者は、検索やその他の基本的なタスクは実行できますが、このアクセスレベルを持つユーザーは、カタログ内のフィールドを追加、削除、または編集できない点で制限されています。

## アクセスレベルとウェブクライアント

Portfolioデスクトップクライアントではアクセスレベルの内容は変更できませんが、Portfolioウェブクライアントに接続するユーザーに対しては、管理者はより細かい権限を設定できます。

アクセスレベルをベースにカスタマイズできる機能は、5種類あります。

- **オリジナルをダウンロード**- カタログからオリジナルのアイテムをダウンロードすることができます。
- **変換設定をカスタマイズ**- オリジナルのダウンロード時に出力や変換の設定を指定するファイル変換ダイアログへのアクセスを許可します。
- **変換プリセットを管理**- 将来使用するプリセットとして、ファイル変換ダイアログからカスタム設定を保存できます。カスタム出力設定は、**変換設定をカスタマイズ**権限を持つユーザーが利用できます。

**注意** 埋め込み可能フィールドのフィールドデータを入力するには、ウェブクライアントは発行者でなければなりません。

### デフォルトのアクセスレベルの設定

多くの権限は各アクセスレベルで決まっていますが、アクセスレベルのデフォルト設定から変更することはできません。デフォルトの設定は、Portfolio デスクトップクライアントユーザーのアクセスレベル権のセットと一致しています。Portfolio Server Admin

Webインターフェイスの「アクセスレベル」ページでは、デフォルト設定はグレーアウトで表示されています。

**例** 閲覧者レベルアクセスのユーザーはオリジナル画像を参照できませんが、カタログ管理者レベルのユーザーはいつでも、フルセットのオリジナル画像の機能を利用できます。

# アクセスレベルの設定

各ユーザーのアクセスレベルのオプションを設定するには:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューで、「アクセスレベル」リンクをクリックします。
3. ユーザーレベルを選択します。
4. オプションをオンまたはオフにします。

**注意** アクセスレベル権限は、Portfolioウェブクライアントを経由して接続するユーザーにだけ適用されます。Portfolioデスクトップクライアントで接続するユーザーは、そのユーザーレベルをベースとするユーザーアクセスレベルセクションで示されているルールに従います。

## ユーザーの編集

ユーザーアカウント名、パスワード、フルネーム、デフォルトカタログなどのユーザーアカウント情報を素早く更新することができます。

ユーザーアカウント情報を更新する場合:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「ユーザー」リンクをクリックします。
3. パスワード、フルネーム、デフォルトカタログなどの、必要なユーザーアカウント情報を変更します。
4. 「適用」をクリックして、変更を保存します。

カタログへのユーザーアクセス権と、特定のアクセスレベル権限は、各カタログ内で更新することができます。

カタログへのユーザーアクセス権を更新する場合:

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「カタログ」リンクをクリックします。
3. このリストからカタログを選択してクリックします。
4. 「カタログのメンバシップを管理」をクリックします。
5. 変更するユーザーをクリックします。
  - 選択したカタログをユーザーに追加するには、「選択したユーザーをカタログに追加する」をクリックします。
  - カatalogへのユーザーのアクセスレベルを変更するには、ドロップダウンメニューからアクセスレベルを選択し、「適用」をクリックします。
  - カatalogからユーザーを削除するには、「メンバシップを取り消し」をクリックします。

## ユーザーの削除

様々な理由により、Portfolio Server上の特定のカタログへユーザーがアクセスできないようにしなければならないこともあります。この処理は、ユーザーのカタログのメンバシップを取り消すか、そのユーザーをPortfolio Serverから完全に削除するかなど、細かいレベルで実行することができます。

### ユーザーのカタログのメンバシップを取り消す場合

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「カタログ」リンクをクリックします。
3. 「カタログ」パネルからカタログを選択し、「カタログのメンバシップを管理」リンクをクリックします。
4. 表示されたユーザーリストで、カタログから削除するユーザーを選択し、「メンバシップを取り消し」リンクをクリックします。

## Portfolio Serverからのユーザーの削除

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます](#)。
2. メインメニューから、「ユーザー」リンクをクリックします。
3. 「ユーザー」パネルで、ユーザーを選択します。
4. 「ユーザーを削除」リンクをクリックします。
5. このユーザーのプライベートギャラリーをどうするかを決定し（「公開にする」または「プライベートギャラリーをすべて削除」）、「削除」をクリックします。

# カタログの管理

Portfolioデスクトップクライアントを使用して行わなければならないカタログ管理作業は多数あります。たとえば、次のような場合です。

- カスタムフィールド、マスターキーワードリスト、およびその他の機能を追加することでニーズに合わせる、カタログのカスタマイズ。
- データを格納するためのオートシンクフォルダの作成。

**注意**デスクトップクライアントから管理者モードでログインすると、そのカタログのカスタムフィールドの作成、メタデータ設定のアップデートが行えます。

詳しくはデスクトップクライアントユーザーガイドを参照してください。

## カタログのカスタマイズ

カタログには、ユーザーのニーズに合わせてカスタマイズ可能な個所があります。

カタログのカスタマイズはすべて、Portfolioデスクトップクライアントで行います。各カタログ機能の詳細については、『Portfolioデスクトップユーザーガイド』を参照してください。

一般的に、管理者が設定を希望するのは、次のカタログプロパティです。

- **カスタムフィールド-**  
ユーザーのワークフロー特有のフィールドです。必要なタイプの情報を入力できるカスタムフィールドを追加することができます。たとえば、フォトストックから購入した写真や映像のコピーライト情報とライセンス情報を一緒に保存することができます。
- **マスターキーワードリスト-**  
このリストは、キーワード入力の一貫性を保つ上で非常に役立ちます。カタログ内での一貫性を確保するために、ユーザーがいつでもマスターキーワードリストからキーワードを入力するようにできます。たとえば、自動車のすべての写真のキーワードを「車」ではなく、「自動車」に統一することができます。
- **デフォルトのフィールド値-**  
一般的な設定があるフィールドについては、フィールドデータを手作業で入力しなくてよいように、そのフィールドのデフォルト値を設定することができます。たとえば、プロジェクトステータスのカスタムフィールドのデフォルト値を「アイデア」にしておくことができます。
- **カタログ作成オプション-** これらのオプションは、カタログへのデータの追加方法を決定します。
- [カタログの作成](#)

## オートシンク

オートシンクはPortfolioの最も重要で強力な機能の1つです。ネットワーク上の任意のフォルダの内容をPortfolioのカタログと同期させたり、その逆を行える素晴らしい機能です。また、Portfolioウェブクライアントのユーザーがカタログに対してどこにファイルをアップロードするかを定義する方法でもあります。

オートシンクフォルダは、Portfolio デスクトップクライアントで追加する必要があります。

## オートシンクとは？

オートシンクでは、ネットワーク上の特定のフォルダとPortfolioカタログのアイテムの間にリンクを作成します。

オートシンクを追加すると、Portfolioからサムネールをそのフォルダにドラッグするだけで、アイテムをそのフォルダに移動することができます。逆に、（MacのFinderまたはWindowsエクスプローラを用いて）そのフォルダに移動したファイルは、自動的にPortfolioでカタログ化され、Portfolioカタログの内容はディスク上のフォルダの内容と完全に一致します。

オートシンクはディスク上にあるフォルダとファイルを表示するだけではありません。Portfolio デスクトップクライアントと共にオートシンクを使えば、フォルダの作成、移動、削除を行うことができ、事実上Portfolioからファイルサーバーの管理、およびカタログ化されたファイルを任意の場所に置くことが可能になります。

オートシンクの典型的な使用方法:

- Portfolioカタログからサムネールをフォルダにドラッグして、Portfolioでディスク上のファイルを整理できます。
- ハードディスク（またはネットワーク）から既存の階層構造のフォルダをPortfolioの「フォルダパレット」に追加し、「同期」ボタンを一度クリックするだけで、すべてのフォルダの内容をカタログ化します。
- Portfolioでネットワーク上の任意の数のフォルダを監視し、これらのフォルダにファイルが追加されたり、これらのフォルダのファイルが変更されたり削除されるたびに、視覚的に警告を行います。
- Portfolioを終了することなく、またはPortfolioカタログを手動で更新することなく、カタログ化されたファイルをネットワーク上のフォルダから別のフォルダへと移動できます。
- ワークグループの他のユーザーが、オートシンクが監視しているフォルダに対し、ファイルをドロップするだけで、カタログにアイテムを追加できます。  
「同期」ボタンを一度クリックするだけで、それらのファイルをカタログに移動できます。

## オートシンクと、Portfolio デスクトップクライアントおよびPortfolioウェブクライアントの関係

Portfolioウェブクライアントを導入すると、オートシンクはウェブクライアントのユーザーにとって重要な機能となります。オートシンクをカタログ内に作成すると、Portfolioウェブクライアントで接続している適切なアクセスレベルのユーザーは、オートシンクを介して、ファイルサーバーにあるカタログにアイテムを追加することができます。Portfolio デスクトップクライアントでは、Portfolioウェブクライアントと接続しているユーザーがデータのアップロードを開始できるようにするには、カタログのオートシンクフォルダを作成する必要があります。Portfolioデスクトップクライアントを使用してカタログにオートシンクフォルダを設定する方法については、オートシンクフォルダについてのセクションを参照してください。

### フォルダパレットの表示

オートシンクを使用するためには、フォルダパレットを表示する必要があります。まだ表示されていない場合は、「表示」>「フォルダ」を選択してください。最初、「フォルダパレット」は空白です。Portfolioと同期させるハードディスクまたはコンピュータネットワーク上にある任意のフォルダは、追加された後にこのパレット内に表示されます。

## オートシンクフォルダの作成

オートシンクフォルダの利点は、Portfolio Serverが、ファイルサーバー上のディレクトリに移動されるカタログのアイテムを監視し、自動的に追加することです。このため、Portfolio Serverがオートシンクフォルダを自動的に更新している間、カタログで他の作業を行うことができます。新しいオートシンクフォルダは、Portfolio Serverからアクセス可能な共有上に配置してください。マウントされている共有（Mac）またはネットワークを通してブラウズ可能な共有（Win）に含まれているフォルダのみを追加できます。

オートシンクフォルダを追加する場合:

1. フォルダパレットで、「監視フォルダの追加」ボタンをクリックします。フォルダパレットが表示されていない場合は、「表示」>「フォルダ」を選択します。
2. オートシンクフォルダとして監視するフォルダを選択し、「OK」をクリックします。Portfolio Serverの効率と速度を最大限に上げるには、監視フォルダをできるかぎり1つのフォルダにまとめ、そのフォルダをオートシンクフォルダとして追加してください。
3. 「オートシンクの設定」ダイアログボックスで、次のオプションから選択します。

### 監視および同期のオプション-

「フォルダ内の変更をつねに監視する」オプションでは基本的に、サーバーがオートシンクフォルダの変更の有無を確認するタイミングを指定します。変更が見つかったら、フォルダパレットでフォルダ名がハイライトされます。

### 同期するタイミング-

このオプションを使用すると、オートシンクフォルダ（監視フォルダ）にあるアイテムをカタログに追加する間隔、またはカタログから削除する間隔を設定できます。

### 同期時にカタログ作成オプションのプリセットを使用する-

このオプションを使うと、保存したプリセットをカタログ作成時に使用することができます。カタログ作成時のプリセットを作成して保存しておく、そのプリセットがドロップダウンリストに含まれます。

コピー、移動、ファイル名の変更機能を含んだプリセットも選択できますが、同期時に使用する際にはプリセットのこうした機能は無視されます。基本的に、カタログ作成プリセットのプロパティの割り当て（フィールド名、説明、キーワード）のみが使用されます。保存したプリセットがプロパティの割り当てを含んでいない場合は、ドロップダウンメニューには表示されません。

カタログ作成オプションのプリセットを作成し、保存する詳しい手順については、『Portfolioデスクトップクライアントユーザーガイド』の「Portfolioの設定」を参照してください。

### カタログ内のアイテムに対するオリジナルが見つからないとき-

このオプションでは、オートシンク同期中にオリジナルファイルが見つからなかった場合にカタログ内のアイテムを保持するか、削除するかを指定することができます。

### フォルダの並べ替え設定-

フォルダの並べ替え設定は、最初にフォルダを開いたときにPortfolioデスクトップクライアントが表示を並べ替える方法を指定します。任意のフィールドを使ってアイテムを並べ替えるか、このフォルダの現在のカスタム並べ替えを適用することができます。現在のカスタム並べ替えを適用する場合は、作成したカスタム並べ替えが、そのカタログレベルのフォルダに適用されます。

4. 「OK」をクリックしてオートシンクの設定を反映し、さらに「OK」をクリックしてオートシンクフォルダを作成します。

## オートシンクフォルダの設定の変更

オートシンクフォルダを作成した後、オートシンクの設定は簡単に変更することができます。

1. Portfolio デスクトップクライアントを起動し、公開されているカタログに接続します。
2. フォルダパレットを開き、オートシンクフォルダを選択します。
3. フォルダパレットの上部にある「オートシンクの設定」ボタンをクリックします。
4. 「オートシンクの設定」ダイアログボックスで、必要な設定を変更して「OK」をクリックします。

**注意:** オートシンクフォルダにアクセスするためのネットワーク権限がない場合は、監視フォルダとカタログ化したサムネールは表示されますが、ファイルをプレビューしたり、開いたりすることはできません。

関連トピック

## オートシンクフォルダの詳細

### オートシンクフォルダとローカルパス

現在のPortfolioクライアントと同じコンピュータにオートシンクフォルダを追加すると、Portfolioは、多数の共有選択オプションを表示します。共有選択オプションは、すべて新しいオートシンクフォルダへの有効なパスです。設定に最も適した共有パスを選択してください。

**注意:** デスクトップシステム上のローカルパスは、2つの理由から、ネットワークで共有する必要があります。この2つの理由とは、ファイルをカタログに追加するためにPortfolio Serverがファイルにアクセスできるようにすることと、Portfolio デスクトップクライアントのユーザーがネットワークを介してファイルにアクセスできるようにするためです。

### Portfolio Serverへのローカルオートシンクフォルダ

Portfolio Serverと同じコンピュータにオートシンクフォルダを追加すると、これらのフォルダを同期するのに必要なネットワークトラフィックの量を抑えることができます。このため、同じコンピュータ上に共有を作成し、オートシンクフォルダを追加する場合は、これらのフォルダの同期速度が、ローカルでないオートシンクフォルダの同期より著しく向上します。

### 重複した共有名を利用しない

異なるターゲットディレクトリを持つが、同じ名前である共有の追加は避けてください。たとえば、1つがc:/mystuff/pictures/、もう1つがC:/documents/pictures/を指す、「pictures」という名前の2つの共有があるとします。オペレーティングシステムとPortfolio Serverの内部優先度により、予期しない結果になることがあります。

## Macintoshマウント共有

Portfolio ServerをMacintosh環境で実行している場合は、ユーザーが作成したオートシンクフォルダを含んでいる可能性があるすべてのネットワーク共有をサーバーにマウントすることが必要です。また、Windows版のPortfolioクライアントからMacintosh版のPortfolio Serverで公開されているカタログにオートシンクフォルダを追加する場合は、Macintosh版のサーバーがマウントしている同一の共有にナビゲートする必要があります。

### 共有の種類と用途

共有の種類	説明	用途
AFP	Apple File Protocolによる共有。これは、Mac OS Xで固有のファイル共有方法です。	AFPは、MacintoshのみまたはMacintoshが混在した環境で使用します。Windowsベースのサーバーでは、Services for Macintoshを使用可能にする必要があります。
SMB	Samba Protocolによる共有。Macintosh、Windows、Unix/Linux間のクロスプラットフォームに対応した共有方法です。	SMBは、プラットフォームが混在した環境で使用します。SMBは、AFPよりも命名規則が制限されており、作成日や変更日などの一部のファイルプロパティをやり取りしません。
ローカルドライブ	ローカルボリュームでの共有。	このオプションは、サーバーボリューム全体をマウントできる場合だけ使用します。このオプションは、主にテスト用です。

### オートシンクプロセスの停止

オートシンクプロセスを停止するには、Portfolio デスクトップクライアントを使用して、公開されているカタログからオートシンクフォルダを削除するか、Portfolio Server Admin Webインターフェイス内のカタログの公開を中止します。どちらを行っても、同期プロセスは停止されます。

オートシンクフォルダを削除した場合は、カタログにフォルダを再追加することで、必要に応じて同期を再開できます。

カタログの公開を中止した場合は、カタログを再公開すると、オートシンクはカタログの公開を中止したポイントから自動的に再開します。

# Portfolio Server の管理

## Portfolio Server のバックアップ

アクシデントは起こります。誰にでも、ラップトップを落としたり、ハードディスクが壊れたり、ネットワーク接続が最悪のときにダウンするという可能性があります。

バックアップすべき最も重要なファイルは、Portfolio FDBファイル、オリジナルファイル、プレビュー画像です。

Portfolioカタログは、ネイティブのPortfolio FDBカタログフォーマットで格納することも、SQLデータベースでPortfolio SQL Connectを使用して格納することもできます。

## Portfolio Server データ

FDBファイルには、すべてのアセットのメタデータ、オリジナルファイルおよびプレビューファイルの位置などの、ファイルについてのすべての情報が格納されています。Portfolio Serverデータベースフォルダには、ユーザーやカタログアクセスレベルなどのサーバー設定情報が保存されています。

FDBカタログファイルと、Portfolio

Serverデータベースフォルダをバックアップするには、すべてのユーザーをログオフさせ、Portfolioサービスを停止しなければなりません。次のバッチファイルのいずれかを使用すると、自動的にユーザーをログオフさせ、Portfolioサービスを停止することができます。

### Windowsのバッチファイル

メモ帳などのテキストエディタを使用して、次のバッチファイルを作成します。もちろん、以下のファイル名やディレクトリ情報は実際のものに置き換える必要があります。ファイルの場所はOSによって異なります。このファイルは.BAT拡張子を付けて保存してください。

**注意:** 以下の各コマンドは一行で入力してください。コマンドラインはスペースで分けられます。

```
net stop "Portfolio Server"
net stop "Portfolio Server Admin"
timeout /T 30
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\native-server\Catalogs\*.fdb"
"C:\backuplocation\applications\native-server\Catalogs\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\data\database" "C:\backuplocation\data\database\"
net start "Portfolio Server Admin"
net start "Portfolio Server"
```

サーバーの設定ファイル、クイック検索設定、スクリプトファイルもバックアップすることができます。実行するには以下のコマンドをバックアップスクリプトに追加してください。

```
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\native-server\portfolio server
files\Configuration.txt" "C:\backuplocation\applications\native-
server\portfolio server files\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\data\quickfind.xml" "C:\backuplocation\data\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\media-engine\Shared\Originals\Scripts"
"C:\backuplocation\applications\media-engine\Shared\Originals\Scripts\"
```

Windows Explorerでアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインインターフェイスからこのバッチファイルを実行します。

WindowsのScheduled Tasks機能を使用すると、このバッチファイルを必要に応じて自動的に実行するようにスケジューリングできます。詳しい手順については、Microsoft Windowsのドキュメントを参照してください。

## Macintoshのスクリプト

テキストエディットなどのテキストエディタを使用して、次のシェルスクリプトを作成します。ファイルはプレーンテキストとして作成し、.SH拡張子を付けてUTF-

8 (Unicode) 形式で保存します。使用しているエディタにオプションがある場合は、UNIXの改行コードを選択します。

**注意:** 以下の各コマンドは一行で入力してください。コマンドラインはスペースで分けられます。

```
#!/bin/sh

SystemStarter stop ExtensisDamServer
launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.extensis.dam-
server.web.admin.launchd.plist
sleep 30
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-
server/Catalogs" "/backuplocation/applications/native-server/Catalogs"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/data/database"
"/backuplocation/data/database"
launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.extensis.dam-
server.web.admin.launchd.plist SystemStarter start ExtensisDamServer
```

サーバーの設定ファイル、クイック検索設定、スクリプトファイルもバックアップすることができます。実行するには以下のコマンドをバックアップスクリプトに追加してください。

```
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-
server/portfolio server files/Configuration.txt"
"/backuplocation/applications/native-server/portfolio server files/"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/data/quickfind.xml"
"/backuplocation/data/"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/media-
engine/Shared/Originals/Scripts" "/backuplocation/applications/media-
engine/Shared/Originals/Scripts/"
```

このスクリプトは、cronコマンドを使用して自動化することができます。このコマンドの詳細については、ターミナルウィンドウでman

cronと入力します。Mac OS Xのスクリプト機能の詳細については、次のWebサイトを参照してください。

[http://www.macdevcenter.com/pub/a/mac/2003/11/07/scripting\\_osx.html](http://www.macdevcenter.com/pub/a/mac/2003/11/07/scripting_osx.html)

## プレビュー画像ディレクトリ

カタログに関連する画面プレビューファイルをバックアップすることも重要です。

プレビュー画像の格納に現在使用されているディレクトリを見つける場合

1. [Portfolio Server Admin Webインターフェイスを開きます。](#)
2. メインメニューから、「**カタログ**」リンクをクリックします。
3. 「**カタログ**」パネルで、カタログを選択します。
4. 「**カタログ詳細情報を表示/編集**」リンクをクリックします。
5. 「**詳細**」パネルで、「**プレビュー**」タブを選択します。プレビューファイルへのディレクトリパスが表示されます。

「プレビュー」タブで示された場所の中身を、FDBまたはSQLデータベースとともにバックアップします。プレビューファイルのバックアップには、サードパーティーのバックアップ専用ツールを利用すると良いでしょう。

# Portfolio Serverとデータ処理のログ

Portfolio Serverは、多くの場所にパフォーマンスとエラーについての情報を記録します。問題のトラブルシューティングや特定が必要な場合に便利です。Extensisのテクニカルサポートでは、問題が発生した際に以下のログファイルのいくつかのご提供をお願いすることがあります。

ログファイルは以下の場所に保存されています:

**Macintosh:**/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/logs/  
と/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/logs/<server\_name>/

**Windows:**C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\logs\  
とC:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\logs\<server\_name>\

<server\_name>には、Portfolio Serverが動いているコンピュータ名が入ります。

ログファイルは以下のとおりです (YYYYは4桁のMM年号、は2桁の月、 DDは2桁の日付) :

logs/boot.log: このファイルはJBoss  
サーバーが起動する際に生成されます。一般的なデバッグ情報、バージョン情報、Javaシステムプロパティを記録します。一度JBossが起動すると、定期的なログが取られるためこのファイルは利用されません。JBossを再起動するたびにこのファイルは削除されます。

logs/extensis.admin.log: このファイルには、Portfolio Server Admin  
Webインターフェイスのステータスに表示される、すべての起動・シャットダウンメッセージが含まれます。

logs/jboss-wrapper.log (Windowsのみ) : このファイルには、JBoss service wrapper  
によるJavaプロセスが開始する際の低いレベルのメッセージが含まれます。Javaプロセスの起動の失敗などのエラーがわかります。

logs/jetty.<YYYY\_MM\_DD>.log: Portfolio Server Admin  
Webインターフェイスの内部Webコンテナのログファイルです。Jetty WebインターフェイスはPortfolio Server自身とは独立して動作しているため、Portfolio Serverを停止または再起動しても、Jettyサービスは常に動作しています。このログは、Portfolio Server Admin  
Webインターフェイスにログインするときの問題を診断するのに役立ちます。

logs/jetty.request.<YYYY\_MM\_DD>.log:  
このログファイルは、HTTPアクション、IPアドレス、レスポンスコードによるWebサーバーのリストです。

logs/jetty-wrapper.log (Windowsのみ): このファイルには、Jetty service  
wrapperによるJavaプロセスが開始する際の低いレベルのメッセージが含まれます。Javaプロセスの起動の失敗などのエラーなどがわかります。

logs/mgen.log: 通常のアウトプットとMediaRich エンジンのエラーが含まれます。

logs/native-server.log: Portfolio Server が出すメッセージと、Portfolio Server Admin  
コンソールで表示されるメッセージが含まれます。

logs/server.log: メインJBoss サーバーのログファイルです。

logs/<server\_name>/MediaGenerator-<MMDDYYYY>.log:  
このログファイルには、Media Engineが引き受けるすべての処理が記録されます。どのような理由であってもMedia Engineがデータを処理できなかった場合、このログにエラーが記録されます。

logs/<server\_name>/ScriptErrors-<MMDDYYYY>.log:  
このログファイルは、Media Engineがエラー結果を出した場合に生成されます。このログのエラー記録から正しくないスクリプトや他のエラーがわかります。例えば、Portfolioウェブクライアントがファイルダウンロードや変換など、メディアエンジンの操作を実行した際の情報など、メディアエンジンの操作、他からの操作が含まれます。

# 設定ファイル

Portfolio Serverには、Portfolio Server Admin

Webインターフェイスでは利用できない高度な設定項目があります。たとえば、次のような場合です。

- **リスナーIP** –サーバーがクライアント接続を受信待機するIPアドレスを制御します。
- **ログカテゴリ** –特定の機能領域をベースに、Portfolio Serverのログレベルを拡張する機能です。

設定ファイルは、名前がconfiguration.txtで、どのテキストエディタでも編集することができます。このファイルは、サーバー上の次のディレクトリにあります。

Macintosh: /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/portfolio server files/

Windows: \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\portfolio server files\

## 設定ファイルによるIPアドレスの指定

デフォルトでは、Portfolio Serverは、サーバー上にあるすべてのIPアドレスと、デフォルトポート2903で受信待機しています。自分で特定のポート番号を指定することもできます。ポート番号を指定するには、Portfolio Serverが使用するポート番号の更新についてのセクションで詳細を参照してください。

特定のIPアドレスを設定する場合:

1. テキストエディタでconfiguration.txtを開きます。
2. 特定のIPアドレスを設定するには、次の行からコメント(#)を外し、IPアドレスを希望するアドレスに変更します。

```
#ListenerIP = 127.0.0.1
```

3. ファイルを保存し、[Portfolio Serverを再起動します](#)。

## 設定ファイルによるデータベースイベントのロギング

Portfolio Serverデータベースの問題を診断できるように、native-server.logファイルに、一般的なデータベース操作を保存することができます。デフォルトでは、起動、シャットダウン、エラーメッセージがログに保存されます。

ログに追加できる操作は次のとおりです:

コマンド	アクション
REQUEST	すべての要求をログに記録する
GENERAL_DEBUG	一般的なデバッグ情報をログに記録する
AUTO_SYNC	オートシンク操作をログに記録する

ログに記録する項目を変更する場合:

1. テキストエディタでconfiguration.txtを開きます。
2. 具体的なログカテゴリを有効にする場合は、次の行からコメント(#)を外します。

```
#LogCategories =
```

3. 追跡する操作をコンマで区切って追加します。例:

```
LogCategories = PERFORMANCE, CONNECTION
```

4. ファイルを保存します。
5. [Portfolio Serverを再起動します](#)。

# ウェブクライアントの管理

管理者は、ユーザーに対するPortfolioウェブクライアントの動作に影響する設定を行うことができます。設定できるのは、ユーザーがクイック検索機能でファイルを検索する方法や、カタログのグリッド表示およびリスト表示のフィールドです。

**注意:** ウェブクライアントがカタログにアクセスできるようにするには、Portfolioウェブクライアントの接続ライセンスを[Portfolio Server Admin](#)に入力しなければなりません。

## Portfolioウェブクライアントのカスタム表示の作成

カタログのカスタム表示の作成により、管理者はPortfolioウェブクライアントで表示されるフィールドを定義することができます。フィールドは、Portfolio デスクトップクライアントを使用してカスタム表示を作成することにより、各カタログに定義されます。

ウェブクライアントのグリッド表示設定とリスト表示設定は、デスクトップクライアントの同一のカスタム表示で定義します。

**注意:** ウェブクライアントでカスタマイズ可能な表示設定は、フィールドと表示順序だけです。Portfolio デスクトップクライアントで利用できるその他の表示のカスタマイズ設定は、ウェブクライアントには影響しません。

Portfolioウェブクライアントで表示されるフィールドを定義する場合

1. Portfolioデスクトップクライアントを開きます。
2. 「ファイル」 > 「サーバーへ接続」を選択し、公開されているカタログに接続します。
3. 「表示」 > 「カスタマイズ」を選択します。
4. ウェブクライアントのグリッド表示のフィールドを定義するには、「サムネイル」タブを選択します。
5. ウェブクライアントのギャラリー表示にある、アイテムのサムネイル下に表示するフィールドを有効にします。
6. ウェブクライアントのリスト表示のフィールドを定義するには、「リスト表示」タブを選択します。
7. 各アイテムのサムネイルの右側の列に表示するフィールドを有効にします。
8. 「OK」をクリックします。
9. カスタム表示のドロップダウンメニューから、「別名で保存」を選択します。
10. 保存する表示に「web client」（かっこは除く）という名前を付け、「OK」をクリックします。

他のカタログに表示されるフィールドをカスタマイズするには、この手順を繰り返します。

# クイック検索パラメータの設定

クイック検索は、多くのユーザーにとってすばやくファイルを探せる簡単な方法です。クイック検索では多くのフィールドを一度に検索し、またクイック検索の手段によって常に多くの結果がもたらされます。クイック検索の代わりに、複合検索の機能を使用すると、特殊な検索条件でファイルを見つけることができます。

デフォルトでは、クイック検索はカタログ内の説明、ファイル名、キーワードのフィールドを検索します。

管理者は、検索結果を調整し期待通りの結果を得るために、各カタログでクイック検索が検索するフィールドを定義することができます。

クイック検索は、カタログごとに検索するフィールドセットをカスタマイズすることもできます。例えば、一つのカタログではクイック検索でキーワードのみを検索させ、別のカタログではファイル名と「パーツ番号」というカスタムフィールドを検索させるというような設定が可能です。

クイック検索パラメータは、Portfolio Server上のQuickFind.xmlファイルに定義されています。このファイルを特定のニーズに合わせて編集することで、希望する動作に合うようにクイック検索を機能的に微調整することができます。

quickfind.xmlファイルを編集する場合

1. Portfolio Serverマシン上の、次の位置を参照します。

**Macintosh:** /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/Data/

**Windows:** \Program Files\Extensis\Portfolio Server\Data\

2. 現在のquickfind.xmlのバックアップコピーを作成します。
3. テキストエディット (Mac) またはメモ帳 (Win) でquickfind.xmlを開きます。
4. ファイルを変更してから、保存します。
5. Portfolio Serverを再起動します。

## Quickfind.xmlファイルの形式

クイック検索が正しく動作するために必須の属性があります。以下のすべての属性をquickfind.xmlファイルに入れる必要があります。

属性	説明
<quickfind> </quickfind>	この属性により、ファイルを開いたり閉じたりします。
<language> </language>	Portfolioの組み込みのシステムフィールドの翻訳に影響する言語です。カスタムフィールドを定義する言語を設定しなければなりません。使用できるパラメータは、en(英語)、fr(フランス語)、de(ドイツ語)、ja(日本語)、es(スペイン語)、it(イタリア語)です。
<catalog is-default="true"> </catalog>	この属性は、カタログ名属性で指定されていないすべてのカタログで使用されるデフォルトのクイック検索パラメータを定義します。
<catalog name="catalog name.fdb"> </catalog>	指定された特定のカタログ用の検索パラメータを定義します(他のカタログのクイック検索動作には影響しません)。
<fields> </fields>	フィールドのリストの開始と終了を定義します。
<field> </field>	クイック検索に含めるカスタムフィールドの定義に使用します。カタログごとに最大3フィールドを定義できます。大文字小文字を区別するカスタムフィールド名は、カタログ内にあるとおりに定義しなければなりません。

**注意:** QuickFind.xml 設定は、Portfolioデスクトップクライアント、Portfolio Express Palette、Portfolioウェブクライアントのすべてのクイック検索に影響します。

例:

Portfolio Serverの管理者で、Images.fdbというカタログがあります。images.fdbカタログ内で、クイック検索で利用できるデフォルトフィールドの代わりに、優先フィールド「Approved」と「Routed to」、新たに作成したカスタムフィールド「Part Numbers」のフィールドをクイック検索で検索できるようにしたいと思います。この場合、quickfind.xmlファイルを次のように編集しますが、他のカタログではデフォルトのクイック検索動作のままにしておきます。

```
<quickfind>
<language>en</language>
<catalog is-default="true">
<fields>
<field>Description</field>
<field>Filename</field>
<field>Keywords</field>
</fields>
</catalog>
<catalog name="images.fdb">
<fields>
<field>Approved</field>
<field>Routed To</field>
<field>Part Numbers</field>
</fields>
</catalog>
</quickfind>
```

# Extensis社について

## 連絡先

### Extensis

1800 SW First Avenue  
Suite 500  
Portland, OR 97201  
電話（無料）：(800) 796-9798  
電話: (503) 274-2020  
Fax: (503) 274-0530  
Web: <http://www.extensis.com>

### Extensis ヨーロッパ

Suites 17 &18, Newton House  
Northampton Science Park  
Kings Park Road, Moulton Park  
Northampton  
NN3 6LG  
United Kingdom  
電話: +44 (0)1604 654 270  
Fax: +44 (0)1604 654 268  
Email: [info@extensis.co.uk](mailto:info@extensis.co.uk)

### カスタマーサービス

Web: <http://www.extensis.com/customerservice/>  
パッケージ内の案内をご覧ください。

## ドキュメントについてのお問い合わせ

Web: <http://www.extensis.com/helpfeedback/>

もしくは国内販売代理店までお問い合わせください。

## 技術サポート

技術サポートにご連絡いただく場合は、次の情報をご用意ください。

- お客様のシリアル番号
- お客様のコンピュータの設定(オペレーティングシステム、メモリ、ハードディスクドライブ、コンフィギュレーションなど)
- ご質問、または問題の説明(何がどういふときに起こったのかを具体的に)
- 電話番号(担当者からお客様への電話を希望される場合)

さらに、表示されたエラー番号またはメッセージおよび、関連するかもしれないと思われるその他の情報を書き留めておいてください。

よくある質問とその答え、トラブルシューティングのヒントについては、次のアドレスからExtensisのWebサイトをご利用ください。 <http://www.extensis.com/>

## 電話によるサポート

北米では、(503) 274-7030にご連絡ください。

ヨーロッパでは、+44 (0) 1604-654-270にご連絡ください。

日本国内では、製品パッケージに同梱されている案内をご覧ください。

# 索引

## E

extensis.admin.log, 37  
extensis.server.log, 37  
Extensisのお問い合わせ先, 42

## J

JBoss AJP, 16  
JBoss  
HTTP/ウェブサービスのポート,  
14  
JBoss ウェブサービス, 16  
jetty.log, 37  
Jetty ウェブアプリケーションの  
ポート, 14  
JMXプール済みポート, 16

## M

MediaRich組み込みサーバーの  
ポート, 16

## P

Portfolio Server Admin  
Webインターフェイス, 11  
Portfolio  
Serverアンインストール, 11  
Portfolio Serverの起動, 14

## Q

QuickFind  
検索パラメータの設定, 40

## R

RMIネーミングサービス, 16

## S

Server Admin  
Webインターフェイス, 11

## W

Windows認証, 38

## ア

アクセスレベル, 27, 28

## イ

インストール  
Open Office, 9  
Portfolio Server, 9  
インストール概要, 8

## ウ

ウェブクライアント  
アクセスレベル, 27  
カスタム表示の作成, 39  
管理, 39  
ウェブクライアントの列のカス  
タマイズ, 39

## オ

オートシンク, 30, 33  
フォルダの設定, 32  
停止, 34  
新規フォルダの作成, 32

## カ

カスタマーサービス, 42  
カスタムフィールド, 30  
カタログ

カスタマイズ, 30  
バックアップ, 35  
ユーザーメンバシップ, 26, 28  
新規作成, 21

既存のカタログの更新, 12  
カタログのバックアップ, 35  
カタログのメンバシップ, 28  
カタログの作成, 21  
カタログの種類, 21  
カスタム作成, 22  
カタログの管理, 30  
カタログへのメンバシップ, 26  
カタログ作成オプション, 30  
カタログ管理者のアクセルレベ  
ル, 27

## サ

サーバー  
再起動, 20  
起動, 14  
サーバーの再起動, 20  
サポート, 42

## シ

システムの必要条件  
Portfolio Server, 8  
シリアル番号, 12

## ス

スクリプトエラーログ, 37

## セ

セールス, 42

## デ

データ処理ログ, 37

## ネ

ネイティブのサーバーコンポー  
ネントのポート, 14

## パ

パーソナライズ  
Portfolio Server, 12  
パスワードの変更  
管理者, 12

## ブ

ブートストラップJNPサーバー  
バインドアドレス, 16

## プ

プレビュー, 23  
以前にカタログ化されたファ  
イル用に作成, 24  
画面プレビューの有効化, 23

## ポ

ポート, 14  
内部, 16  
外部, 14  
競合, 16

## マ

マスタキーリスト, 30  
マニュアルへのご意見, 42

## メ

メディアジェネレータのログ,  
37

## ユ

ユーザー  
アクセスレベル, 27, 28  
カタログへの追加, 26  
削除, 28  
編集, 28  
追加, 26  
ユーザーの削除, 28  
ユーザーの管理  
カタログメンバシップ, 26

## リ

リスナーIP, 38

## ロ

ログ, 37  
データベースイベント, 38  
ログカテゴリ, 38

## 以

以前のカタログ  
更新, 12

## 企

企業セールス, 42

## 共

共有  
マウント, 33  
共有のマウント, 33

## 商

商標, 2

## 必

必要条件, 8

## 技

技術サポート, 42

## 新

新しい機能, 6  
新機能, 6

## 権

権限  
ウェブクライアント, 27

## 画

画面プレビュー, 23  
有効化, 23

## 発

発行者のアクセスレベル, 27

## 管

管理  
Portfolio Server Admin  
Webインターフェイス, 11

## 編

編集者のアクセスレベル, 27

## 著

著作権, 2

## 言

言語  
Server Adminの表示の変更, 20

## 設

設定ファイル, 38  
IPアドレスの指定, 38  
データベースイベント, 38

**詳**

詳細規定, 2

**関**

閲覧者のアクセスレベル, 27

**電**

電話番号, 42